

町田市被災建築物応急危険度判定員連絡協議会質疑応答

Q1 判定員手帳の記載事項の改定時期・内容について

A 東京都建築士会では、2023年度3月時点では変更予定はないとのことです。

Q2 判定員手帳の写真について、取得後年数が経過した顔写真を張替えてもよいか。

A 顔写真変更希望の場合、再発行が可能です。※東京建築士会HP参照

Q3 判定調査票の表記について確認したい。

A ご意見を参考に内容を精査します。

Q4 判定員に、所属地域の登録者についての情報(氏名・地域毎の登録人数等)を開示してもらえると発災時に活動する際に助かります。

A 個人情報保護の観点がありますが、今後、判定員の皆様に相談しながら前向きに検討したいと思います。

Q5 判定の調査結果について、判定員によって結果に個人差が出ている。発災時の現場における最終的な判断はどのようにすべきか。

A 判定方法に明確な決まりはありませんが、経験者へのヒアリングなど情報収集を重ねて事例などをお示し出来ればと思います。

Q6 今後、地域毎の開催等の予定はあるか

A 現在、具体的な予定はありませんが、今後、ご意見を参考に検討していきたいと思います。

アンケート集計結果(被災建築物応急危険度判定協議会)

1 ご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

アンケート集計率:96%(26/27)

■評価

【高評価】

- ・初めての参加である程度、参考になった ・ 良い機会だった。 ・ 有意義でした。
- ・ 実地訓練あったのがよかった ・ 実地訓練は大変勉強になった。
- ・ お休みのところ、ご対応いただきありがとうございます。 ・ 実地訓練は重要だと思う。

■要望

【拠点について】

- ・ 堺地域の拠点を小山センターへの変更 ・ 小山市民センターからの移動が望ましい。

【開催頻度について】

- ・ 今後、実地で訓練が増えるとうい。 ・ 定期的に顔合わせ、研修の機会があると心強い。
- ・ 定期的に開催してほしい。 ・ 判定員相互の理解を深めるために会議開催頻度を増やしてほしい。

【判定訓練について】

- ・ 判定訓練を継続した方がよい ・ 2～3名のチームでの実施訓練が重要と考える。
- ・ 2020年の春に実施したような実際の建物での訓練をどんどん行っていきたい。

【地域ごとの集まりについて】

- ・ 班活動等もあるとうい。 ・ 地域ごとのミーティングの機会も必要ではないか。
- ・ 各グループのミーティングを定期的に行うと動きがよくなると思う。

【発災時の対応について】

- ・ 用意する資機材としてヘルメットを持っていない。拠点で準備してほしい。
- ・ 拠点で用意する移動手段を具体的にしてほしい。(タクシー利用可など)
- ・ 判定活動においてボランティアと行政とが行う範囲はどこまでなのか。
- ・ 発災時、避難施設に集合しているため、状況について避難施設にも届くとありがたい。

【協議会の参加者について】

- ・ 今回の参加者の年齢層が高いと感じた。若い層が参加できるよう周知されたい。
- ・ たくさんの判定員が参加するように連絡や要請をしてほしい。
- ・ 協議会への参加人数が段々減っている。

【判定ランク付けについて】

- ・ 判定のランク付けの判断が難しいと感じた。 ・ 判定結果、個人差が大きく、危険側の判断でよいのか。
- ・ 初めて参加し判定作業を行ったが、引き続き訓練が必要と感じた。
- ・ 判定事例と判定ランクを合わせた資料があると実際の判定時に役立つと思う。

【判定調査表の記入について】

- ・ 瓦ではない屋根仕上げの判定方法が知りたい。
- ・ 調査票の”内部調査も併せて実施”の記載は不要ではないか。
- ・ 二次被害防止のため、内部調査は基本禁止すべきではないか。

【情報公開について】

- ・ 市内の建築物の老朽化の状況や住宅密集地域等の情報を知りたい。
- ・ メール開封パスワードを同じアドレスに送ることはセキュリティの観点から有効なのか

【その他】

- ・ 住まいのインスペクションメンバーとの連携を深めたい。
- ・ 経験を積むためにも他地域への派遣もどんどんやってほしい。
- ・ ビデオ上映について、後で確認できるようにURLを教えてください

2 今後の協議会において聞いてみたい講演や事例等ありましたらご記入ください。

【応急危険度判定経験者による講演】

- ・ 東日本震災時の判定活動結果 ・ 過去の判定事例
- ・ 判定経験者による実施内容を聞いてみたい。 ・ 経験者の話が聞きたい。

【防災まちづくりに関する講演】

- ・ 2名希望者あり